

京都教区時報

カトリック京都司教区
広報委員会

京都市中京区
河原町通三条上る

TEL 075-211-3025

FAX 075-211-3041

honbu@kyoto.catholic.jp

<https://www.kyoto-catholic.net/>

2023年 司教年頭書簡
「コロナ時代を生きる信仰」
「わたしのシノダリティを創ろう」
を受けて



Synod
2021
2024
For a Synodal Church
"Walking together in prayer"

第10回 自身にとつてのシノダリティとは… 「老いに寄り添い、いのちに寄り添う」

わたしは、1993年4月に当社会福祉法人カトリック聖ヨゼフホーム（奈良県御所市）に入職し、今年度は丸30年という歩みの節目の年でありました。年月はかかりましたが、大塚司教さまはじめ教区の神父さま、シスター、信徒の方々のおかげで、今年の復活祭に洗礼を受けるに至りました。ひとつひとつを少しずつ重ねて参りたいと思います。

このたび、年頭書簡を拝読し、自分自身がどう歩み、どう生きているのかを振り返る機会をいただきましたので、日ごろ大切に、実践していることのわかちあいをさせていただきたく思います。当法人の聖ヨゼフ・ホーム（御所市）では主の祈りを、サンタ・マリア（奈良市）では平和を求め、祈りを、毎朝、職員皆で輪になり、心を合わせて唱えることを大切にしています。これは、恩師である故ニュージェント神父さまと故吉田弘元施設長が、カトリック施設共同体としての「ともに歩むあり方」を示してくださったものです。

また、カトリックの精神である「隣人愛」や「奉仕」に「福祉」を加えた3つの言の葉を大切にしています。お一人おひとりの「老いに寄り添い、

いのちに寄り添い」ながら、社会福祉法人として地域社会に貢献するとともに、「どんな人も断らない！」という福祉的理念に基づいた実践を行っていきます。そしてさらなるサービスの充実とお二人の恩師の夢の実現のため、施設の全面建て替えを実施しました（写真）。

「困りごと」の種類が何であっても分け隔てなく、小さな人、声を出せない人、生きづらさのある人、行き場のない人を受け入れるということは、地域共生社会の実現という時代の要請のなか、なくてはならないことです。これからも自身の日々の生活のなかで、「シノダリティ」という言の葉を意識し、醸成し、何より「大切」にしたいと思います。そして、皆さまとともに素敵な旅をしたいと思えます。

※QRコードより施設の動画もご覧ください

社会福祉法人カトリック聖ヨゼフホーム

養護老人ホーム 聖ヨゼフ・ホーム

特別養護老人ホーム サンタ・マリア

総合施設長 平岡 毅



信徒カテキスタ養成講座

対面交流会 8月27日(日)

「あなたも福音の喜びを伝えるカテキスタになりませんか？」と書かれたちらしを覚えておられる方もいらっしゃるかもしれません。2022年10月から始まった京都教区「信徒カテキスタ養成講座」の受講者募集のちらしです。

カテキスタとは

主に求道者の洗礼の歩みに同伴し、新信者の共同体生活を助ける奉仕職を「カテキスタ」と呼びます。教皇フランシスコは、2021年5月10日、自発教令「アントイクウム・ミニステリウム（古来の「役務」）を発表し、カテキスタの奉仕職を制定しました。教皇はその中で、教理教育の奉仕への協力を召されたと感じる信徒たちの存在を認めることが必要であり、カテキスタは信仰の証人・



師・同伴者として、洗礼の秘跡の準備から生涯の育成にいたるまで、司牧に奉仕するよう招かれていると説明しています。

養成講座の開講

京都教区「信徒カテキスタ養成講座」の受講対象者は、「30歳以上の信徒で、受洗・受堅後5年以上経過し、共同体活動に積極的に参加している信徒」です。ちらしを見て、神の呼びかけを感じ、それに応えたいと思った人が、所属のブロック担当司祭に申し出て推薦状をもらい、受講申し込みをしなければなりません。なかなか高いハードルです。

大塚司教と共に、この講座を担当している福音宣教企画室のスタッフも、何人申し込みがあるのか心配されたそうですが、30代から70代の16名の申し込みがあり、無事に講座がスタートしました。コロナのためすべてオンライン形式で、毎月1〜2回の講座が開かれてきました。昼と夜のコースがあり、遠方からでも、また仕事があっても参加できるように工夫されています。

開講から1年近くがたち、大塚司教の「一度対面で集まろう」との呼びかけで、西陣教会内の望洋庵にて、受講者が初めて顔を合わせるようになりました。

初めての対面交流

今までオンラインの講座だったので、実際に会うのは初めての方が多く、会場に集まられた皆さんからは、少し緊張感が伝わってきました。

はじめに大塚司教から、この講座について次のようなお話がありました。

「皆さんがこの講座に申し込まれたということ自体、聖霊が働き、神に選ばれたということとです。自信を持ってください。勉強をしていただくことはたくさんあります。この講座は運転免許証や何かの免許を取るといふようなことではなく、試験もありません。教会の奉仕です。そのため名乗りを上げてくださった皆さんが、自信を持って奉仕ができる



ように補助し、養成していくものです。この講座が終了したら、皆さんは京都教区『信徒カテキスタ』となります。しかし、それが目的ではなく、一つのしるしとして、今後、キリスト教を学びたい、洗礼を受けたいと思っている人々と共に歩んでいくという奉仕職を目指しています。もう引き下がれませぬよ(笑)。

続いてグループごとの司教面談が行われ、その間は、福音宣教企画室のリードで、「カードの分かち合い」をしました。

「希望」「愛」「成長」「美」「一致」など、短い言葉が書かれたカードを引き、それについて分かち合いをするというものでした。皆さん、心からの分かち合いをしてくださり、参加者の距離がぐっと縮まったように感じました。



司教面談が終わったグループは、一樣に笑顔で戻って来られたので、とても有意義で、満たされた時間だったのだろうと感じました。

最後に、お茶を飲みながら一言ずつ話される受講者の皆さんの表情は、開会の時と違ってリラックスしておられ、自分に与えられたこの使命を、喜びをもって

遂行していこうという意気込みが感じられました。

私たちがイエスと共に

以前は洗礼準備の学びを、司祭やシスター、専門のカテキスタなどが担ってきましたが、時代の変化と共に召命も減少しています。信仰の継承のため、現代ほど新しい求道者を送ってくださることが待ち望まれる時代はありません。

京都教区では、「求道者と同伴する信徒の養成講座」をこれまでに6期行い、100名以上の信徒が受講されました。今後「信徒カテキスタ」になれる方々が、「求道者と同伴する信徒の養成講座」修了者や、ブロックの共同宣教司牧の担当者として協力しながら奉仕することが期待されます。

イエスは「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」(マルコ16・15)と言われました。私たち信徒一人ひとりにも福音宣教の使命があります。今回の取材を通して、それぞれの場で、それぞれの方法で、自分のできる福音宣教の務めを果たしていきたいと思いました。「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイ28・20)と言われたイエスと共に。

時報編集担当者



参加された受講者の皆さんと
大塚司教、福音宣教企画室のスタッフ

第16回 戦争と平和写真展

「沖縄・フクシマ・水俣」

京都教区カトリック正義と平和協議会

8月5日(土) 6日(日)

今年も河原町教会地下のヴィリオンホールにて、「戦争と平和写真展」を開催しました。

猛暑の中、両日合わせて120名を超える来場者がありました。

「水俣」

1996年

に東京で始まった水俣病展のポスターを展示。

5日には水俣フォーラムの理事長実川悠太さんと、水俣病患者の小笹恵さんにお越しいただき、写真を説明するトークイベントも開催し



ました。患者の写真が使われたポスターを見ながら、小笹さんは「写っている人、皆さん知っています」と、ポスターに写し出された患者らの水俣病を発症するまでの経過や闘病生活、家族の事、水俣の人々の暮らしについて話をしてくださいました。実川さんは、「単なる環境問題ではなく、人々が豊かになる一方で起こった悲劇。産業化の恩恵を受けたすべての人に関わることなので、誰もが無関係ではありません。水俣病の存在が判った後の企業の対応には問題があり、被害者に対しての補償も十分ではなく、同じ過ちを繰り返さないための対策も万全とは言えません」と話されました。

「沖縄」

今年も「オキナワ平和サポート」から写真を提供いただきました。南西諸島に攻撃拠点が作られようとしています。ミサイル配備をはじめ、沖縄県で進む軍



備増強や自衛隊基地建設の様子、住民たちの戦いの写真とともに展示された美ら海に暮らすカクレクマノミなどの魚たち、美しいサンゴ礁の写真にはほっこりさせられました。手作りの「在日米軍マップ」では、基地の場所がいかに沖縄に集中しているかが、ひと目でわかっていただけだと思います。

「フクシマ」

今年も日本全国の原子力発電所の手作りマップ、東日本大震災当時や復興中の写真などの展示と、坂本鉄平さんの被災地に咲く花々の写真も展示しました。



★来場者の感想

★過去から
しっかりと学
び、愚かな
ことを起こ
さないよう
にしっかりと
祈ります。

★ガーン！

頭と心を打
たれる思い
です。祈り
とともに行
動していき
たいです。時間はありません。

★正平協のメンバーの皆様が、毎年献身的にこの写真展の準備をしておられることに敬意を表します。実川さんのお話はとてもわかりやすく心に響きました。水俣展のパネルの下に書かれていた「知ることから始めよう。」「近代とは何か。」「人間とは何か。」という言葉が心に刺さりました。沖縄、フクシマの写真展も私たちが起こったことを忘れないために、繰り返し繰り返し開催していくことの大きな意義を感じました。

★今の世の中の動きは経済中心で、平和とは真逆の方向へ向かっていると感じ



ている人々は大勢いると思いますが、その動きを止めることが出来ないのもどかしいことです。

★原爆投下を経験した我が国だから声を上げ、粘り強く平和を訴え続けなくてはならないと思う。このような展示を通して何度も過去の我々の体験を思い起こし話し合い、次世代にも伝え続ける事しか平和を築く手段はないと思う。またカトリック信者である私は、日々のロザリオの中で、マリア様に平和への取り次ぎを願っている。

★今日は広島に原爆が投下された日で、平和の大切さをつくづく実感してミサ



に与りました。みんなが真摯に受け止め、世界平和のために何が出来るかを考え、実行していきたい！ 全ての子どもたちが、平和な世界で大きく成長していてくれますように、祈らずにはいられません。

報告

京都教区カトリック正義と平和協議会

北村由紀子



***** 青少年委員会 *****

高校生会「夏の集い」
上野教会にて

7月29日開催



高校生会「夏の集い」が実施され、高校生11名を含む約30名が上野教会に集合しました。

当日は、聖マルタ・聖マリア・聖ラザロの記念日で、聖書の言葉を味わいながら、イエスが与えてくれる命のことを学びました。

伊賀上野は伊賀忍者や松尾芭蕉で有名です。教会の方にガイドをしていただきながら、伊賀上野城や伊賀鉄道市野市駅（忍者市駅）などを散策しました。

参加者は日本有数の高さをほこる上野城の石垣からの迫力ある景色を眺めたり、芭蕉の旅姿を模して建てられたという俳聖殿を見学したりしました。

教会に戻るとミサをおささげし、一人一人の感想を発表し、教会の方々が作ってくださったカレーライスとサラダをいただきました。国際色豊かな上野教会の雰囲気の中で、国籍や言語やルーツの枠を越えて、同じ信仰によって結ばれている喜びを体験できました。ご協力いただいた上野小教区の皆様に心より感謝申し上げます。

高校生会担当司祭 菅原友明

中学生「夏の集い」
唐崎メリノールハウスにて

8月17日開催



去年はオンラインで行った広島平和学習を、今年は1日のみの対面開催で行いました。

今回は「あなた方に平和があるように」(ヨハネ20・19)に沿い、自分が平和を感じるのはどんな時か、そしてイエス様のいう平和とは何か、について分かち合いました。中学生からは、争いや許し、安心、笑顔、思いやりなど、用意した付箋が足りなくなるほどにたくさんの意見が出ました。また、今回のミサは普段と少し違う形で行われました。入祭時に皆で祭壇を作り上げ、ミサ中も座ったままで進められました。このような形もあるのだと、中学生だけでなくリーダーも共に新しい体験ができました。

レクリエーション中や休憩時間にも、中学生の楽しい話し声が聞こえており、中学生会を通して新しい友達ができていることを嬉しく思います。

さて、少し気が早いですが、次回からはコロナ禍以前のように合宿形式での開催を考えています。今の中学生にとっては、中学生会で初めての合宿です。たくさんの中学生の参加をリーダー一同心待ちにしています。

中学生会リーダー 西陣教会 河合理菜



こんにちは シスター

京都教区共同宣教司牧担当者のシスターをご紹介しますシリーズを始めます。

奈良ブロック シスター服部悦子（善きサマリア人修道会）

私は善光寺で有名な長野市出身、兄3人姉2人の末っ子です。三姉妹は県内唯一のカトリック校、長野清泉女学院高校を卒業しました。姉たちは御聖体の宣教クララ修道会、私は善きサマリア人修道会に入会しました。家は仏教ですのでなかなか理解されませんでした、押し切りました。高校の「宗教」の時間にマドレに質問をして困らせようとしたことがあり「この学年はクラスの空気がピリッとしてますわ!」と言われました。卒業後20名程が受洗し、観想会に2名、活動会に3名入会しました。

奈良には久しぶりに住むようになりました。ある日大塚司教様から電話をいただき、「共同宣教司牧」のお手伝いをするようになりました。教会学校は奈良・佐世保・東京と経験しましたが、このような奉仕は初めてのことでちょっと心配しました。でも、神父様方やシスター方のご協力で何とか続けています。私は皆さんとの出会いはとても大切なことと思っています。



YES 2023

先月号に引き続き、「YES 2023」のご案内をいたします!

YESとは、**Y**=Youth、**E**=Enjoy・Encounter・Exchange・Etc...、**S**=Spaceの略で、京都教区の青年が、「年に一度、気楽に集まろう!」ということで2002年から毎年開催されているイベントです。

久しぶりの宿泊込みのイベントということで、スタッフ一同気合が入っております! 大塚司教様の講話や、大きな会場ならではのレクリエーションなど、みなさまに楽しんでいただけるようなプログラムを考えております! 久しぶりに参加される方も、初めて参加される方も大歓迎です! 是非、ご参加ください!

日程：11月25日（土）13：30 開会式
26日（日）12：00 閉会式
場所：京都聖母学院キャンパス内
対象：18～35歳までの青年（高校生不可）

申し込みにつきましては、青年センターHPやSNSでお知らせいたします。
YES 2023 実行委員一同

つながりネットワーク 聖めようコミュニケーション

京都カトリック青年センター

青年センターは、教区を越える青少年活動について
京都教区の窓口となるとともに、京都教区内の各教会、
青年の各諸活動をバックアップするための機関です。



← 青年センターのHPも
見てね!

青年センターあんでな

大塚司教の予定

最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。
右記のQRコードからも確認できます。



お知らせ

教 区

いのち・平和・環境委員会

「いのち・平和・環境の日」の集い

オンライン講演会「人権とは何か
—教会の社会教説をてがかりに—」

日時：11月11日④ 10:00～11:00

講師：奥村豊神父（京都司教区）

申込締切：11月9日④

QRコードからお申し込みく
ださい。

京都教区のHPからも申し込みができます。

詳細はちらしをご覧ください。

聖書委員会

オンライン聖書講座

ともに歩んでくださる神

—シノダリティの心をもとめて—

第11回「福音の証人として」

11月2日から3か月配信

講師：阿部仲麻呂神父（サレジオ修道会）

第12回「旅の終わりと始まり」

11月16日から3か月配信

講師：鈴木信一神父

（聖パウロ修道会）

要申込、有料

QRコードより詳細をご覧ください

広報委員会

教区時報1月号の原稿締切日は11月13日④です。

メールにてご連絡ください

honbu@kyoto.catholic.jp

訃報

アントニオ・バルデス神父様
（グアダルベ宣教会）

2023年7月31日

メキシコにて帰天。

91歳。

1956年叙階。1958年来日。

2017年に引退して帰国さ

れるまで、長年にわたり、

京都教区での宣教活動に

献身してくださいました。神父様の永遠の

安息のためにお祈りください。



諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

聖歌練習 11月12日④ 14:00

11月25日④ 17:30 18:30 集会祭儀奉仕

場所：河原町教会聖堂

問合せ：075-951-4283 則武 隆

コーロ・チェレステ(女声コーラス)

練習 11月9日④ 10:00

場所：河原町教会2階楽廊

問合せ：075-561-5971 駒井和子

聴覚障がい者の会・京都グループ

手話表現学習会（聖書と典礼）

日時：11月21日④ 13:00～15:00

場所：希望の家地域福祉センター

京都市南区東九条東岩本町31-10

問合せ：Tel・Fax：075-723-1135 傳 裕子

心のともしび

ラジオ番組案内（全国34局で放送）

KBS京都 ④～⑤ 朝5:55

④ 朝5:15

ラジオ関西 ④～⑤ 朝5:00

④ 朝6:05

毎日放送 ④～⑤ 朝5:45

④ 朝4:55

11月のテーマ「旅路」



司祭の人事異動のお知らせ

10月1日付

三重北部ブロック担当司祭

アダム・クジャク師

（エスコラピオス修道会）

三重地区協力司祭

（旧任命：三重北部ブロック担当司祭）

ヴィクトール・デラバン師

（エスコラピオス修道会）

皆さまのまわりに点訳版「京都教区時報」が必要の方がおられないでしょうか。点訳版「京都教区時報」をご希望の方がおられましたら、カ障連大阪フレンドリー点字部・笠松幸彦さんまでお申込みください。無料でお送りします。

Tel・Fax/072-722-0271